

令和6年度 事業の状況

1. 令和6年度 教育研究助成事業

定款第4条第1項第1号に掲げる事業は次のとおりである。

(1) 目 的

この助成は、岡山県内における医学及び医療福祉学に関する研究を助成し、その振興を図ることにより医療福祉社会の発展に寄与することを目的とする。

(2) 対 象

- ① 医学・医療福祉学の研究であって、申請者が1人で行うもの、または、2人以上の研究者が同一のテーマについて共同で行うもの。
- ② 特色ある研究を発展させるためのもの。
- ③ 40歳以下の者が行う研究で、将来の発展が期待できる優れた着想をもつもの。

(3) 選 考

選考委員会で選考し、理事会の議を経て決定した。

(4) 申請件数、採択件数、助成額

申請のあった36件のうち18件を採択した。助成額は総額4,955,482円。

(5) 助成者一覧、成果等

(所属及び職名は申請書提出時点)

①	うすい ゆう 臼居 優	川崎医科大学 生理学1 助教
	研究題目	魚類の心臓における酸素供給システムの解明～虚血性心疾患治療への応用に向けた取り組み～
	助 成 額	300,000 円
	成 果 等	cxcl12a 遺伝子を欠損し、血管形成に異常を示す系統を樹立した。また、心臓の cDNA ライブラリーを作製し、2 種類の炭酸脱水素酵素の遺伝子発現解析を実施し、これらの発現がないことを確認した。以上、本助成申請書にて記した実験計画を完遂した。
②	ふくま ゆうな 福間 佑菜	川崎医科大学大学院 医学研究科 医科学専攻 形態系分野 腺腫瘍学 大学院生
	研究題目	マンモグラフィ乳房構成の適切かつ簡便な分類についての検討
	助 成 額	300,000 円
	成 果 等	不均一高濃度、極めて高濃度で検出率(感度)・特異度は低下するが、脂肪性、乳腺散在、迷うが散在、迷うが不均一の区分では感度・特異度ともに差は認めなかったことから、やはり Dense breast と判断される乳房構成は臨床的に問題となり、Dense breast をより正確に評価し、通知する事が重要であると言える。AI を使用した乳房構成評価は読影医間のばらつきが避けられない目視評価よりは客観的で、ばらつきが少なく、乳房構成評価が可能である。また、乳房構成評価に時間と労力がかからず、検診への導入も比較的容易であるのではないかと考える。
③	うえはら かずや 上原 和也	川崎医科大学附属病院 看護部 看護副主任
	研究題目	身体拘束に関する多職種の認識の違い
	助 成 額	294,500 円
	成 果 等	アンケート調査の結果、医師 38 名・看護職員 444 名・リハビリ職員 160

名の合計 642 名から回答を得た。得られたデータは職種別に分析し、身体拘束認識尺度の点数を T 検定および分散分析で評価した。また、質的データは KJ 法を用いて分析した。認知症研修への参加と身体拘束の認識に関する質問では、医師については参加経験と身体拘束の認識に優位差を認めなかった。ただし、参加経験のある医師の方が、身体拘束の必要性を認識が高い傾向が見られた。一方、リハビリ職および看護職員については身体拘束の認識に優位差を認め、参加経験のある職員の方が身体拘束の認識が低い結果であった。この結果から、医師は患者の治療を最優先するため、身体拘束が必要と考えている可能性がある」と推察される。身体拘束 3 原則の理解と身体拘束の認識に関する質問では、医師、リハビリ職、看護職員のいずれにも優位差が認められた。3 原則を知っている職員ほど、身体拘束に対する認識が低い傾向が見られた。また、3 原則に沿わない状態での身体拘束の実施についての質問でも、同様に 3 職種で優位差が見られた。特に、3 原則に沿わない状態で身体拘束を行う職種ほど、身体拘束の必要性の認識が高い傾向がある。これらの結果から、多職種で身体拘束を軽減するためには、医師を含む多職種による身体拘束に関する研修会を開催することが必要である。研修内容としては、治療のために身体拘束が必要であると認識している医師に対し、身体拘束 3 原則に基づいて身体拘束を行う重要性を含めた内容で研修を行うことが求められる。

④	もりわけ りょう 森分 良	川崎医科大学附属病院 中央放射線部 診療放射線技師
	研究題目	小児頭部 CT 検査における低管電圧ローカライザー X 線撮影による患者被ばく線量低減の試み
	助 成 額	300,000 円
	成 果 等	小児成人両ファントムを用いて、取得した画像データをもとに解析を行い、2024 年 6 月 21 日-22 日で開催された、日本 CT 技術学会第 12 回学術大会の口述発表にて、小児頭部 CT 検査における低管電圧ローカライザー X 線撮影の有用性を報告した。
⑤	かわはら きょう こ 河原 今日子	川崎医科大学総合医療センター HCU 看護副師長
	研究題目	看護師特定行為研修を組み込んだ院内研修の学習状況による看護実践能力の比較検討
	助 成 額	300,000 円
	成 果 等	486 名より回答を得て（回収率 71.6%）、同意欄にチェックがあり欠損等のない 457 名を分析対象者（有効回答率 67.3%）とした。CNCSS の 13 コンピテンスにおける平均値と標準偏差を算出し、研修参加の有無による看護実践能力の違いは Mann-Whitney の U 検定を用いて検討した。CNCSS の 13 コンピテンスにおける平均値は「基本的責務」3.4 と最も高く、次いで「倫理的実践」3.3 であった。研修参加の有無による検討では、演習を組み込んだ学習をした者は「クリニカルジャッジメント」「リスクマネジメント」「看護管理（役割遂行）」「継続学習」が有意に高かった。看護師特定行為研修で演習を組み込んだ学習が、看護実践能力に寄与する可能性が示唆された。
⑥	くろずみ な み 黒住 菜美	川崎医療福祉大学 医療技術学部 臨床検査学科 講師
	研究題目	急性白血病の進行・悪化を阻止する新規治療法の開発
	助 成 額	300,000 円
	成 果 等	RB 蛋白のリン酸化に関わるサイクリンやサイクリンキナーゼは、IU1 による USP14 阻害によって、その蛋白量は変化していなかった。しかし、サイクリン D・E に結合し、リン酸化を抑制する p21 量が USP14 阻害によって減少した。また、RB 蛋白そ

のものも USP14 阻害によって減少した。細胞周期制御因子の多くはユビキチンプロテアソームシステムによって分解制御されており、本研究でも USP14 阻害によって急性白血病細胞内の K48 鎖結合蛋白質量は減少したことから、USP14 阻害剤はプロテアソーム分解を促進させ、細胞周期制御因子量に影響を与え、細胞周期を停止させた可能性が示唆された。

⑦

やまもと あきら 山本 晃	岡山大学病院 院内がん登録室（医学科 IR 室・血液腫瘍内科）助教
研究題目	次世代医学教育の展開:医療面接練習プラットフォームにおける生成 AI の比較研究
助 成 額	300,000 円
成 果 等	適切な感情表現、文法、医療面接における有用性など多くの項目で Claude 3.5 sonnet が最も高い評価をされた反面、GPT-4o については 12 項目中 1 項目も最高評価を得なかった。迅速さについては概ねいずれの生成 AI も好評価であったものの、Gemma-2 はかなり反応が遅かったことがあったと報告された。生成 AI の性能はアップデートにより変化するため、教育目的での利用に際しては、事前に用途に応じた AI 選定と検証が重要である。ローカル環境で実装した Gemma-2 の高評価も注目されるが、ローカル環境特有のサーバー遅延には引き続き注意が必要である。本研究は少人数での予備的な検討であるため、今後は対象者数を増やし、今後開発されていく生成 AI との比較を継続して行う必要がある。

⑧

よしだ こうじ 吉田 耕治	川崎医科大学附属病院 リハビリテーションセンター 理学療法士
研究題目	糖尿病神経障害の簡易評価確立と日本人糖尿病患者の足病変発生リスクの実態調査
助 成 額	300,000 円
成 果 等	【糖尿病患者の糖尿病神経障害に対して信頼性と妥当性の高い簡易診断検査の確立と検証】神経伝導検査による糖尿病神経障害の診断に有用な簡易評価法を検討するため、「糖尿病神経障害を考える会」の診断基準、振動覚検査、モノフィラメント検査、足指屈曲筋力測定の予測精度を比較した。多変量解析の結果、モノフィラメント検査（オッズ比 4.66）および足指屈曲筋力（オッズ比 0.89）が糖尿病神経障害の検査に有用である可能性が示唆された。【糖尿病患者の自宅における糖尿病足病変発生リスクの環境要因の解明】糖尿病患者において屋内で靴下を履いていたのは 34%で、スリッパ等を使用していたのは 44%であった。屋外で靴下を着用していたのは 99%、スニーカー等の安全な靴を着用していたのは 96%であった。屋内で靴下を装用している糖尿病患者は 34%にとどまった。よって、糖尿病足病変発生リスクは屋内で高い可能性が示唆された。【糖尿病患者の歩行時足底圧分析による足病変発生リスク特性の検証】健常成人群と糖尿病群の歩行時足底圧を比較し、糖尿病足病変の発生リスク特性を検証した。その結果、糖尿病群では健常成人群と比較して歩行時の足底圧が有意に上昇していることが明らかとなった。さらに、足部の部位別解析において、踵部および中足骨部における足底圧が特に高いことが確認され、これらの部位が糖尿病足病変のリスク部位となる可能性が示された。

⑨

なかむら ひろき 中村 博貴	川崎医科大学大学院 医学研究科 医科学専攻 形態系分野 放射線診断学 大学院生
研究題目	単色 X 線を用いた運動器カテーテル治療における塞栓物質の血管内動態の検討
助 成 額	300,000 円
成 果 等	チエナムの特性として炎症血管に特異的な塞栓効果、正常血管では 90

分以内での再開通を認めた。球状塞栓物質である Nexspehre や Embospehre や液体塞栓物質である Lipiodol での比較検討を行った。Nexspehre は一時塞栓物質だが、炎症血管の塞栓効果は乏しくかった。Embospehre は永久塞栓物質であり、正常、炎症血管関係なくすべての血管に塞栓効果を認めた。Lipiodol は炎症血管の塞栓効果はあるが、正常血管との有意な差は明らかではなかった。症例数が少なく再現性も乏しいため、今後症例の蓄積が望まれる。									
⑩	<table> <tr> <td>なかいそ あやか 中磯 彩果</td><td>川崎医科大学附属病院 6 階 ICU・CCU 看護師</td></tr> <tr> <td>研究題目</td><td>当院の循環器集中治療室(Cardiac Care Unit : CCU)に入院する心不全患者におけるせん妄の発症と入院前の生活背景の関連性について</td></tr> <tr> <td>助 成 額</td><td>257,772 円</td></tr> <tr> <td>成 果 等</td><td>研究途中であるため、2025 年 3 月の日本循環器学会で発表予定の内容を成果とし報告する。せん妄あり群とせん妄なし群を比較し、せん妄あり群は患者背景として高齢、BMI が低い、NT-pro BNP が高値、慢性腎臓病や脂質異常症の罹患率が高いという結果がみられた。これらの項目は一般的にせん妄の発症に関与する要因とされており、本研究でも一致していた。加えて、入院前の生活背景において、せん妄あり群では、就業率が低い、介護保険の申請率が高い、自宅で座位や臥位で過ごす時間が長い、療養目的以外で外出する機会が少ない、睡眠導入剤の使用が多く、熟眠感が得られていないという結果が得られた。</td></tr> </table>	なかいそ あやか 中磯 彩果	川崎医科大学附属病院 6 階 ICU・CCU 看護師	研究題目	当院の循環器集中治療室(Cardiac Care Unit : CCU)に入院する心不全患者におけるせん妄の発症と入院前の生活背景の関連性について	助 成 額	257,772 円	成 果 等	研究途中であるため、2025 年 3 月の日本循環器学会で発表予定の内容を成果とし報告する。せん妄あり群とせん妄なし群を比較し、せん妄あり群は患者背景として高齢、BMI が低い、NT-pro BNP が高値、慢性腎臓病や脂質異常症の罹患率が高いという結果がみられた。これらの項目は一般的にせん妄の発症に関与する要因とされており、本研究でも一致していた。加えて、入院前の生活背景において、せん妄あり群では、就業率が低い、介護保険の申請率が高い、自宅で座位や臥位で過ごす時間が長い、療養目的以外で外出する機会が少ない、睡眠導入剤の使用が多く、熟眠感が得られていないという結果が得られた。
なかいそ あやか 中磯 彩果	川崎医科大学附属病院 6 階 ICU・CCU 看護師								
研究題目	当院の循環器集中治療室(Cardiac Care Unit : CCU)に入院する心不全患者におけるせん妄の発症と入院前の生活背景の関連性について								
助 成 額	257,772 円								
成 果 等	研究途中であるため、2025 年 3 月の日本循環器学会で発表予定の内容を成果とし報告する。せん妄あり群とせん妄なし群を比較し、せん妄あり群は患者背景として高齢、BMI が低い、NT-pro BNP が高値、慢性腎臓病や脂質異常症の罹患率が高いという結果がみられた。これらの項目は一般的にせん妄の発症に関与する要因とされており、本研究でも一致していた。加えて、入院前の生活背景において、せん妄あり群では、就業率が低い、介護保険の申請率が高い、自宅で座位や臥位で過ごす時間が長い、療養目的以外で外出する機会が少ない、睡眠導入剤の使用が多く、熟眠感が得られていないという結果が得られた。								
⑪	<table> <tr> <td>う だ かずひろ 宇田 和宏</td><td>岡山大学病院 小児科 医員</td></tr> <tr> <td>研究題目</td><td>医療職における母子感染予防の理解度調査および教育的介入の効果に関する研究</td></tr> <tr> <td>助 成 額</td><td>300,000 円</td></tr> <tr> <td>成 果 等</td><td>アンケートの結果、母子感染症の予防をルーチンで行っている医療者は少ないことが分かった。職業別の検討では、産婦人科医、助産師では小児科医と比較して先天性サイトメガロウイルス感染症に関する知識の正答率が低かった。一方で産婦人科医はトキソプラズマに関する知識の正答率は高かった。アンケート結果をもとに妊婦向けの啓発資料を作成し、ルーチンでの患者教育を行うための教育資材を作成した。</td></tr> </table>	う だ かずひろ 宇田 和宏	岡山大学病院 小児科 医員	研究題目	医療職における母子感染予防の理解度調査および教育的介入の効果に関する研究	助 成 額	300,000 円	成 果 等	アンケートの結果、母子感染症の予防をルーチンで行っている医療者は少ないことが分かった。職業別の検討では、産婦人科医、助産師では小児科医と比較して先天性サイトメガロウイルス感染症に関する知識の正答率が低かった。一方で産婦人科医はトキソプラズマに関する知識の正答率は高かった。アンケート結果をもとに妊婦向けの啓発資料を作成し、ルーチンでの患者教育を行うための教育資材を作成した。
う だ かずひろ 宇田 和宏	岡山大学病院 小児科 医員								
研究題目	医療職における母子感染予防の理解度調査および教育的介入の効果に関する研究								
助 成 額	300,000 円								
成 果 等	アンケートの結果、母子感染症の予防をルーチンで行っている医療者は少ないことが分かった。職業別の検討では、産婦人科医、助産師では小児科医と比較して先天性サイトメガロウイルス感染症に関する知識の正答率が低かった。一方で産婦人科医はトキソプラズマに関する知識の正答率は高かった。アンケート結果をもとに妊婦向けの啓発資料を作成し、ルーチンでの患者教育を行うための教育資材を作成した。								
⑫	<table> <tr> <td>きん きょうへい 金 恭 平</td><td>岡山大学 医学部 脳神経外科学 客員研究員</td></tr> <tr> <td>研究題目</td><td>定量化した神経学的異常所見を用いた神経学的診察教育の試み</td></tr> <tr> <td>助 成 額</td><td>300,000 円</td></tr> <tr> <td>成 果 等</td><td>頸椎症性脊髄症とパーキンソン病いずれにおいても、異常所見がみられた部位において、コントロール群と比較して明確な差が認められた。また、学生実習の際に録画した診察動画と数値化した異常所見を供覧することで、より理解が深まったという返答を多く得た。今後、類似した症状を呈している患者のデータを蓄積して統計処理が行えるようなデータセット構築を行い、論文作成を目指す予定である。</td></tr> </table>	きん きょうへい 金 恭 平	岡山大学 医学部 脳神経外科学 客員研究員	研究題目	定量化した神経学的異常所見を用いた神経学的診察教育の試み	助 成 額	300,000 円	成 果 等	頸椎症性脊髄症とパーキンソン病いずれにおいても、異常所見がみられた部位において、コントロール群と比較して明確な差が認められた。また、学生実習の際に録画した診察動画と数値化した異常所見を供覧することで、より理解が深まったという返答を多く得た。今後、類似した症状を呈している患者のデータを蓄積して統計処理が行えるようなデータセット構築を行い、論文作成を目指す予定である。
きん きょうへい 金 恭 平	岡山大学 医学部 脳神経外科学 客員研究員								
研究題目	定量化した神経学的異常所見を用いた神経学的診察教育の試み								
助 成 額	300,000 円								
成 果 等	頸椎症性脊髄症とパーキンソン病いずれにおいても、異常所見がみられた部位において、コントロール群と比較して明確な差が認められた。また、学生実習の際に録画した診察動画と数値化した異常所見を供覧することで、より理解が深まったという返答を多く得た。今後、類似した症状を呈している患者のデータを蓄積して統計処理が行えるようなデータセット構築を行い、論文作成を目指す予定である。								
⑬	<table> <tr> <td>かたおか しんご 片岡 真吾</td><td>川崎医療福祉大学 医療技術学部 臨床工学科 助教</td></tr> <tr> <td>研究題目</td><td>医療従事者をを目指す学生を対象とした仮想空間でのトレーニングコンテンツの検討</td></tr> <tr> <td>助 成 額</td><td>299,010 円</td></tr> <tr> <td>成 果 等</td><td>VR で作成するコンテンツは様々なものを検討したうえで、人工心肺装</td></tr> </table>	かたおか しんご 片岡 真吾	川崎医療福祉大学 医療技術学部 臨床工学科 助教	研究題目	医療従事者をを目指す学生を対象とした仮想空間でのトレーニングコンテンツの検討	助 成 額	299,010 円	成 果 等	VR で作成するコンテンツは様々なものを検討したうえで、人工心肺装
かたおか しんご 片岡 真吾	川崎医療福祉大学 医療技術学部 臨床工学科 助教								
研究題目	医療従事者をを目指す学生を対象とした仮想空間でのトレーニングコンテンツの検討								
助 成 額	299,010 円								
成 果 等	VR で作成するコンテンツは様々なものを検討したうえで、人工心肺装								

置の操作を模したものとした。人工心肺装置は臨床工学技士の行う業務の中でも比較的テレビドラマなどで活躍することが多く、イメージがしやすい。また、オープンキャンパス時にも多くの高校生が体験する人気の医療機器である。一方で操作には習熟した技術が必要であり、組み立てるのにも高い技術と多くの時間が必要となる。この部分をより簡単にするために仮想空間を用いて人工心肺装置を模倣し、その操作方法などについて学べるコンテンツを開発した。現在は簡単な血流の操作飲みが可能だが、今後は人工心肺の開始から終了時の操作までを実装していく予定である。当システムはHMDをつけるだけで操作が可能で、コントローラーも必要としない。ヴァーチャルハンドイリュージョンに代表されるような身体感覚の仮想空間への移動について検討していくことで、スイッチやメーターなどの「重さ」をよりリアルにできると考えられる。さらに、当システムは設定を行えば複数のHMDでも使用可能なため、今後実際の学内実習にも生かせるような設計・開発を継続していきたい。

⑭

ときひろ 時弘	りさ 里紗	川崎医療短期大学 医療介護福祉学科 助教
研究題目	業務用シューズの選び方及び満足度とシューズの提案	
助成額	89,500 円	
成果等	足袋型シューズ試着後の満足度について、CS (Customer Satisfaction) 分析を実施した結果、改善の余地のある項目として、学生、病棟スタッフともに「洗える」、「着脱のしやすさ」が挙げた。今回の研究対象者の所属病棟では、入浴介助、ストレッチャーへの移乗介助などの業務が多くあり、ストレッチャーのストッパーを外すときに足指の先を使用するためにカバーが必要と考えられた。一方、足の把持力やバランス力などの向上が期待でき、夜勤中の足の疲れがないなど一定の効果が得られた。病棟では、シャワー介助や食事介助のときに、洗剤や食事がかかり汚染することもあり、「洗える」素材について重要視されていることが分かった。シャワー介助等履き替える頻度が多く、紐が不便であるとの指摘があり、結ばない靴ひもを選択するなど脱ぎ履きのしやすさについて検討が必要である。病棟スタッフは、靴の正しい履き方などの「教育を受けたことがある」と回答したが、学生は、7割が「教育を受けたことがない」と回答しており、専門職に移行するまでに、靴についての教育を受ける必要がある。	

⑮

すがの 菅野	とよこ 豊子	川崎医科大学附属病院 病院病理部 副主任臨床検査技師
研究題目	「がんゲノムファイリング検査」に供する検体の DNA 概量に関する研究	
助成額	117,900 円	
成果等	脱灰の有無により核酸染色の染色性は顕微鏡下での観察では差を認識することは難しかった。輝度計測ソフトを用いて、腫瘍部と正常部の核の染色性を比較すると、正常部の方が濃く染まる結果となった。当初腫瘍部の方が濃く染まると想定していたが、実際は正常部の方が濃く染まっていた要因としては、細胞の核の大きさを考慮していなかったためと思われる。また、脱灰・非脱灰の腫瘍部の核の染色性を比較すると、脱灰を行っている方が濃く染まる結果となった。脱灰操作での DNA の断片化は核酸染色の染色性で推定することは困難と思われる。今回は症例数が少ないため確定的なことは言えないが、核酸染色の染色強度のみから DNA の概量を推定することは難しかった。染色をおこなった症例については、基礎データとして DNA 量を測定した結果、脱灰の有無により DNA 量に差が生じ、非脱灰ブロックの DNA 量が多いという結果となり、核酸染色の染色性との関連性は証明できなかった。染色条件、画像解析条件、画像撮影条件など測定条件を検証することが、今後の課題である。	

⑩

かじやま ゆうた 梶山 裕太	川崎医科大学 神経内科学 講師
研究題目	地域在住高齢者に対する遠隔リハビリテーションシステムの開発と身体活動性向上への予備的検討
助 成 額	300,000 円
成 果 等	共同研究者（川崎医療福祉大学 木村大輔、兵藤史武）らとともに Web アプリケーションとしてのテレリハビリテーション（ver. 0.15a）を開発し、必要となる 26 種のリハビリテーション訓練動画を作成した。また、高齢者に対する神経リハビリテーションの転倒予防効果について、予備的検討として健康若年者を対象に短期リハビリ介入を行い、重篤な有害事象なく、かつ、前後方向へ揺動時のバランス機能を短期的に向上させることを示し、学会で報告した。2024 年 7 月～2025 年 2 月の間で、当科外来へ通院する神経変性疾患（パーキンソン病：PD）を有する地域在住患者を対象としてモバイルヘルス機器（Google Fitbit）を用いて予備的な社会行動データ収集を行った。データ取得が終了した 22 名（平均年齢 66 歳）について、アンケートでの活動量評価（身体活動量質問紙（PACE）は中央値でみれば 114 点（IQR 29 - 122）と高齢者の平均 102.9 点（Hagiwara ら 2008）と遜色ない一方で、PACE 20 点代と極端に低活動な一群が存在することが分かった。モバイルヘルス機器を用いた評価でも、一日歩数の中央値は 4870 歩（IQR 2061 - 6943）であり、高齢者の平均一日 5396 歩（令和元年 国民健康・栄養調査）と比較して、中央値では一致しても、極端に歩数の少ない一群（2000 歩台）の存在が示唆された。これらの、すでに ADL や活動性が低下した高齢者に対してリハビリテーションを含めた実際的なアプローチが必要であることが確認された。神経変性を有する地域在住患者 4 名（PD 患者 4 名）から同意を取得し、3 名へ遠隔リハビリテーションを実施し、1 名については評価を完了した。実施が完了した 1 名については、評価中の有害事象はなく、患者満足度は極めて良好であった。また、運動機能（歩行速度、バランス機能（MiniBESTest））の改善は認めなかった一方で、活動量は一日平均歩数 5591 歩から 6184 歩へ向上し、PD 患者における ADL 評価（MDS-UPDRS part1, 2）もそれぞれ 16 点から 5 点、9 点から 4 点に改善し、その効果はリハ終了 2 か月後も持続していた。遠隔リハの実現可能性と、生活習慣への影響について引き続き評価予定である。本研究を継続し、さらに発展させるため、産学連携と地域患者会との連携を推進した。神経変性疾患を有する患者は、長期の地域療養ののち施設入所が避けられないケースが多く存在する。地域在住患者を対象とした本研究においても、施設入所患者を視野にいて研究の発展・継続を図った。研究協力者（川崎医科大学 神経内科学 三原雅史）らとともに、産学連携として株式会社テックドクター（代表取締役：湊 和修、本社：東京都中央区）、株式会社フィロソフィア（代表取締役：堅田 陽介、本社：大阪府大阪市）との共同研究契約を締結し、研究継続性を確保した。また、地域療養におけるリハビリテーションの重要性を普及するため、全国パーキンソン病友の会 岡山県支部および株式会社フィロソフィアの協賛のもと、「パーキンソン病リハビリ教室」を開催した（2024 年 11 月 24 日に第 1 回、12 月 7 日に第 2 回、2025 年 2 月 16 日に第 3 回、3 月 15 日に第 4 回を開催した）。

⑪

たなか しんいち 田中 慎一	川崎医療福祉大学 医療技術学部 臨床検査学科 講師
研究題目	細胞診断の自動化判定に関するテクスチャ画像解析の応用
助 成 額	296,800 円
成 果 等	細胞診画像に対するテクスチャ解析技術の適用により、細胞集塊の特徴

を数値化し、従来の診断法と比較可能な客観的評価基準を確立した。研究成果は、第63回日本臨床細胞学会秋期大会にて発表し、国際学術誌 Cancers に「Quantitative Structural Analysis of Hyperchromatic Crowded Cell Groups in Cervical Cytology: Overcoming Diagnostic Pitfalls」のタイトルで掲載された。	
⑬	はまだ ひろき 濱田 大幹 川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科 助教
研究題目	水辺教育でのリアルタイム動画解析による Water Safety Net AI の開発
助 成 額	300,000 円
成 果 等	菱友システムズ社製のソフトウェアを用いて、Verity Sense から得られたデータをリアルタイムで画像表示するシステムを完成させることができた。溺水は5分未満の救助が重要であることが報告されており（Quan et al., 2016）、実際の様子と撮影された映像との時間差は、1秒程度であり、溺水や異常 HR を検知してから、救助するためには十分な時間であった。今回、完成したソフトウェアを活用し、データを蓄積していくことで、今後は、事前に危機検知する AI の構築を目指していく予定である。

2. 令和6年度 教育研究機関及び地域社会との連携・交流助成事業

定款第4条第1項第2号に掲げる事業は次のとおりである。

(1) 目 的

この助成は、岡山県内の医学・医療福祉学教育研究機関と地域社会との連携・交流事業に対して助成し、その振興を図り、生涯学習熱の高まる県民に対して、医療・福祉知識の一層の普及を図ることを目的とする。

(2) 対 象

岡山県内の医学・医療福祉学に関する教育研究機関に所属するものが実施する次の行事を対象とする。

① 公開講座 ② セミナー ③ 講演会 ④ 研究会 ⑤ 研修会 等

(3) 選 考

選考委員会で選考し、理事会の議を経て決定した。

(4) 申請件数、採択件数、助成額

申請のあった9件のうち5件を採択した。助成額は総額 797,987 円。

(5) 助成者一覧、成果等

(所属及び職名は申請書提出時点)

①	まつお かおり 松生 香里 川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科 准教授
行 事 名	第 37 回 日本トレーニング科学会
期 日	令和 6 年 11 月 2 日（土）・3 日（日）
会 場	川崎医療福祉大学講義棟・食堂
助 成 額	200,000 円
成 果 等	「第 37 回日本トレーニング科学会大会」は、実験室内における研究から、現場的な研究まで、研究者とスポーツ現場で活躍するアスリートを支援に携わる者、また、運動指導や医療福祉現場に携わる者が、共に議論する機会とし、スポーツ選手の競技力向上のみならず、市民の健康づくりに貢献できる場として、研究と実践・支援を融合する機会にすることを目的として実施した。健康・体力づくりの運動の視点から、エリート競技

スポーツに至るあらゆるスポーツや運動の実施現場で、トレーニングに関する情報の集積と、これについての指導者や研究者など専門家の意見交換の場を共有することを目指した。運動指導や医療福祉現場に携わる者が、共に議論する機会を設けたことによって、スポーツ選手の競技力向上のみならず、県内にとどまらず、全国各地から足を運んでいただいた。このことによって、エリートアスリートや一般成人の健康・体力づくりに貢献できる研究や実践・支援の好循環を促進する機会となったことから、今後、大学間のみならず社会への貢献が期待される。

②

しおみ たつし 塩見 達志	川崎医科大学 病理学 准教授
行 事 名	第 56 回 日本臨床分子形態学会総会・学術集会
期 日	令和 6 年 9 月 28 日（土）・29 日（日）
会 場	川崎医科大学 現代医学教育博物館
助 成 額	200,000 円
成 果 等	本学会の特別講演の演者として、大阪大学蛋白質研究所 蛋白質ナノ科学研究室教授の原田慶恵先生（日本生物物理学会前会長）と、（地独）東京都健康長寿医療センター研究所 老年病理学・高齢者がん研究グループ研究部長の石渡俊行先生、そのほか、教育講演・シンポジウム/ワークショップ、安澄記念講演（東北大学 笹野公伸先生）、一般演題等が行われた。岡山県内・外から多数の参加者による活発な学術的な交流が図られ、医学・医療の発展、向上に寄与するものと期待された。

③

やました まさふみ 山下 真史	川崎医科大学附属病院 薬剤部 副主任
行 事 名	がん薬物療法 薬薬連携講習会
期 日	令和 7 年 3 月 12 日（水）
会 場	川崎医科大学附属病院 院内カンファレンス室（オンラインセミナー）
助 成 額	51,987 円
成 果 等	近隣の薬局薬剤師を対象として、薬薬連携の強化を目的としたがん薬物療法に関する講習会を開催し、ID 数ベースで 18 名の薬局薬剤師に参加していただいた。講演内容として、近年、患者がますます増加傾向にある免疫チェックポイント阻害薬に関して、適正な管理方法や薬薬連携の実践的なポイントの情報共有を行う事が出来た。また、ICI の副作用マネジメントの他職種連携について、積極的に活動されている最相先生の講義を、院内の薬剤師・看護師も計 22 名受講し、日常の業務に役立つ知見を得ることができた。がん薬物療法に関する勉強会の開催は、連携充実加算の実施施設の届け出に必要な施設基準とされている。現時点では届け出に至っていないが、将来的な実現を見越して、滞りなく勉強会を開催するための足掛かりとして貴重な経験となった。当日、大きなトラブルはなかったが、カメラのオンオフや画面共有のタイミング、Web 上で視聴している方とのタイムラグ等、細かい点では、多くの課題・改善点を見つけることができた。参加者からのアンケート結果も好評であり、継続的な開催を期待する反応も得られた。

④

は が よしこ 芳賀 佳子	川崎医療福祉大学 看護実践・キャリアサポートセンター 副センター長
行 事 名	2024 年度 地域看護職員を対象とした一般研修（特別企画）
期 日	令和 6 年 8 月 3 日（土）
会 場	川崎医科大学総合医療センター 川崎祐宣記念ホール
助 成 額	200,000 円
成 果 等	超少子高齢化の進行、人々の価値観の変化により、健康上のニーズは増

大し、多様化・複雑化しており、人生 100 年時代の到来等により、社会全体も様々に変化している。このような中、看護職の活躍する領域や場の多様化が進み、看護職の役割発揮に対する社会からの期待が高まっている。そのような背景から、対象となる人々の多様なニーズに対応して看護を創造・提供することができ、また、地域の様々な職種・関係者と協働しながら、自律的に判断しながら看護実践を行うとともに自らキャリア構築の仕方や働き方を選択する事が求められている。そこで、本研修は、地域の看護職や看護管理者に「何をどのように学ぶことができるのか」、「学びながらキャリアを構築する意義や具体的な方法」、「職員のキャリアの構築をどのように支援していくのか」等について啓発することを目的として開催した。地域の看護職が課題を共有し、具体的に取り組むべきことの議論等をする場を提供することは地域の看護職の連携・交流の促進と質向上に寄与することができる。実施後のアンケートの結果においては、研修の満足度が大変高く、生涯学習の必要を認識でき、看護職としてのキャリア形成をあらためて考えることができた。また、施設の垣根を越えた課題や取り組みを共有することは良い経験であったなどの意見が多数寄せられた。

⑤

みやけ えいこ
三宅 映子

川崎医療短期大学 看護学科 准教授

行 事 名

①認知症サポーター養成講座・交流会
②認知症サポーターステップアップ講座
③チームオレンジの交流会

期 日

①令和 6 年 7 月 18 日（木）
②令和 6 年 9 月 13 日（金）
③令和 6 年 10 月 3 日（木）

会 場

①川崎医療短期大学 100 大講義室
②川崎医療短期大学 301 講義室・100 大講義室
③川崎医療短期大学 301 講義室

助 成 額

146,000 円

成 果 等

①認知症サポーター養成講座・交流会

川崎医療短期大学教職員・看護学生ならびに地域住民を対象に、認知症に関する正しい知識を学ぶための講座を開催した。この講座や交流会の参加者は認知症の方やその家族に対する理解が深まり、約 100 名の認知症サポーターが誕生した。参加者に、認知症の方と接するときの態度や地域への貢献について考えていただくきっかけを提供できた。

②認知症サポーターステップアップ講座

①の受講者のうち希望者が参加した。①の次段階であるこの講座を受講することで、認知症の方やその家族が安心して暮らし続けられる地域づくりの具体的活動とチームオレンジ*の活動に必要な知識を身につけていただいた。また、若年性認知症の当事者である丹野智文氏に、当事者でなければ気づけない苦悩や困りごと、生活の工夫についてお話いただいた。この講座を通して、認知症の理解が更に深まり、今後の活動に生かしていただけるものと考えられた。

*チームオレンジ：近隣の認知症サポーターがチームを組み、認知症の方やその家族に対して早期からの生活面の支援等を行う取り組み

③チームオレンジの交流会

②の受講者と昨年までにチームオレンジのメンバーになっている方との交流会を開催した。様々な地域で活動しているメンバーの活動成果や日頃の疑問・困りごとなどを共有することで、活動を開始・継続するためのヒントが得られた。また、交流会を通してチーム

オレンジの活動が、認知症の方やその家族の方にとって有意義で必要なものであることを実感していただき、これからの活動につながっていくものになったと考えられた。

3. 令和6年度 国際教育・研究交流助成事業

定款第4条第1項第3号に掲げる事業は次のとおりである。

(1) 目的

この助成は、医学・医療福祉学にかかわる岡山県内の研究者を研修のため海外へ派遣したり、外国から県内の大学へ招請する事業に対して旅費、滞在費等の一部を助成することにより、教育・研究の向上に資することを目的とする。

(2) 派遣・招請の対象

- ① 外国の研究であること
- ② 教育研究に優れた実績のある外国の大学・研究所での研修であること。
- ③ 医学・医療福祉学に関する研究であって、研究レベルを向上させるもの。

(3) 派遣・招請の資格

- ① 優れた教育研究活動の資質があること。
- ② 国際活動に必要な語学力を有すること。
- ③ 研究活動への参加により、教育活動の向上が期待されること。

(4) 選考

選考委員会で選考し、理事会の議を経て決定した。

(5) 申請件数、採択件数、助成額

- ＜派遣＞ 1件申請があったが、該当なしとした。
- ＜招請＞ 2件申請があったが、該当なしとした。

4. その他目的を達成するために必要な事業

定款第4条第1項第4号に掲げる事業は次のとおりである。

(1) P R 事業（ホームページの随時更新）

ホームページを通じて、本法人の概要やコンセプトをはじめ、必要に応じて時宜を得た情報を発信し、本来の趣旨や目的の実現を図るため、また、本法人の財務状況を公表し、助成公募や寄附金募集の事業を積極的に推進するために内容の更新を積極的に行った。これまで175名の受賞者の「受賞者寄稿文」を掲載するなど、一層の充実がなされた。

(2) 募金事業

本法人の財源に充てるべく、また、当法人の事業の周知という観点から、令和6年度においても募金事業を行った。学園内の教員や岡山県病院協会関係の病院、業者等に要請を行った結果、年度末までには5,210,000円の浄財が寄せられた。